

目次 [企業理念](#) [価値創造ストーリー](#) [経営戦略](#) [データ](#)

dentsu の DNA

PURPOSE

WHY / WHAT / HOW

VALUES

VISION

経営方針

CEO メッセージ

## 第1章

# 企業理念

私たちの存在意義と実現したい社会

# dentsuのDNA

## 活力ある社会を創造し、その発展に尽力する



### まだないものを創造し、国を豊かにしていくー

#### それが電通グループの根底に流れる価値観

創業者・光永星郎の手によって1901年に創設された日本広告株式会社(当時)は、日本国民の意識改革を目指し、地方に質の高いニュース記事を行き渡らせるべく、通信と広告販売をセットにした画期的なビジネスモデルを立ち上げました。1936年には、国策により通信部門を手放し、広告専門の会社として再スタートを切ることとなったものの、顧客企業や媒体社、社会の役に立ちたいという意識は脈々と従業員の中に引き継がれ、電通グループのユニークなビジネスモデルへとつながっていきました。

### ニューメディアの普及とともに多様な事業形態へと進展

第4代社長・吉田秀雄は、広告業界の発展・地位向上のために産業の基盤を整備するとともに、新たなる電波放送媒体の普及を推進しました。民放ラジオ放送、民放テレビ放送が相次いで始まり、瞬間に家庭に普及すると、日常のなかでコンテンツを楽しむ新しいライフスタイルが日本に浸透しました。このニューメディアの普及とともに電通グループも発展し、万博やスポーツ、エンタテインメント、テーマパークなど多様な事業を手がけていきました。こうして豊かな社会を創造し、その発展に尽力していくことが、電通グループのDNAに刻み込まれていきました。



# 「人が生きる喜びに満ちた活力ある社会」を希求し、実現し続ける123年間

- 1901 光永星郎、日本広告(株)創業(7月)  
電報通信社併設(11月)
- 1906 電報通信社を改組し(株)日本電報通信社創立
- 1936 通信部門を同盟通信社に委譲し、広告专业化
- 1946 電通報創刊
- 1947 日本の広告界近代化の先覚者吉田秀雄、  
電通第4代社長就任/広告電通賞制定
- 1949 学生広告論文電通賞制定
- 1950 広告功労者顕彰を創設
- 1951 民放ラジオ放送の開局に貢献
- 1953 民放テレビ放送の開局に貢献
- 1955 社名を(株)電通に改称  
新聞人功労者顕彰を創設
- 1956 月刊「マーケティングと広告」創刊  
日本の広告業で初めてマーケティング導入

- 1961 電通インターナショナル構想を発表
- 1964 東京オリンピックの開催に協力
- 1970 日本万国博覧会(大阪)開催に協力
- 1971 放送功労者顕彰を創設
- 1974 (株)電通の1973年度取扱高実績 世界1位に
- 1978 コミュニケーションカンパニーへの転換  
英文社名をDentsu Advertising Ltd.から  
Dentsu Inc.に改称

- 1980 他社に先駆けて北京に事務所設立し中国進出
- 1981 米最大のヤング・アンド・ルビカム社と提携  
海外戦略本格化

## B2B2S

### グローバル視点の社会課題解決

創業以来、生活者視点で、より良い社会の実現に向けた課題解決を行ってきたdentsu。社会環境が激変し、グローバル連携で取り組むビジネス課題や社会課題が増加するなか、より困難な課題解決に向け、持続的成長パートナーとしての体制や基盤整備を慣習にとらわれず敢行。

## エンタメ／コンテンツ

### コンテンツ起点的マーケティング

1980年代以降、コンテンツを基軸にテーマパークやショールーム、商業施設など新分野のソリューションを提供。90年代以降は、映画やアニメなどのコンテンツ制作領域にも進出。これらは、生活者の新しい文化の創出や、デジタルにおけるコンテンツ・マーケティングにも受け継がれている。

## イベント／スポーツ

### コミュニケーション業域を拡張

1970年の日本万国博覧会(大阪)という国家事業の準備から実施運営に至る業務で培った多様なノウハウをもとに、スポーツ、イベント、PRなどさまざまな分野において、「コンテンツと企業と生活者を体験によってつなぐ」という視点で顧客企業向けサービスを拡充した。

## 広告

### 日本の広告業を産業として躍進

戦後、広告の地位向上を目指し、新聞の発行部数公開に尽力。更に民間放送の設立・普及、クリエイティブの技術水準向上のための広告電通賞設置、日本の広告業界初のマーケティング導入など、公正性、文化性、科学性を広告業に積極的に取り入れ、業界全体の発展に尽くした。

- 1986 企業理念を制定し「Total Communications Service」の提供を象徴するCIを導入
- 1996 日本初のインターネット専業広告代理店設立
- 2001 (株)電通創業100周年/東証一部上場  
/アニメ映画「千と千尋の神隠し」制作協力
- 2002 汐留新社屋竣工、移転

## 通信

### 革新的な技術でビジネスをリード

通信高速化のために1926年にいち早く航空部を設置し、取材先の写真などの搬送体制を整えた。また1928年にドイツで写真の電送技術が実用化されると、他社に先んじて写真電送機を買い付け、どこよりも早く通信業での実績を積んだ。

- 2002 ピュブリシス・グループとの資本業務提携  
/2002 FIFA ワールドカップ 韓国/日本開催に協力
- 2003 地上波デジタル放送開始に協力
- 2004 環境問題の取り組み開始
- 2005 日本国際博覧会(愛・地球博)開催に協力
- 2008 「エコ・ファースト企業」認定取得
- 2009 新企業理念「Good Innovation」発表  
コンテンツ配信、ITソリューションやスマートグリッドなどの領域へ
- 2013 英国イージス・グループを100%買収  
電通イージス・ネットワーク社設立  
電通グループ行動憲章を制定  
資本金を746億981万円に増資

- 2015 決算期を12月31日に変更  
2015年3月期通期決算から国際会計基準(IFRS)適用
- 2016 (株)電通デジタル設立
- 2020 純粋持株会社移行
- 2021 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に協力グループのPURPOSE「an invitation to the never before.」及びVALUESを制定
- 2023 グループのVISIONを制定  
「One dentsu」ワン・マネジメント・チーム体制
- 2024 グローバル共通事業管理モデルとして、One dentsu オペレーティング・モデル導入

## PURPOSE

# an invitation to the never before.

私たちは、多様な視点を持つ人々とつながりながら、  
かつてないアイデアやソリューションを生み出し、  
社会や企業の持続的な発展を実現するために存在しています。

株式会社 電通グループ  
取締役 代表執行役 社長 グローバル CEO  
五十嵐 博



## WHY/WHAT/HOW

### WHY

# For lasting good

社会・企業・生活者全体のより良いエコシステムのために、  
中長期で価値を生み出し続けることが、私たちの使命です。

### WHAT

# The power of the never before

かつてないアイデアとソリューションで、  
変化するビジネス環境に新たな視点を持ちこみ、未来を創造していきます。

### HOW

# Open teaming

世界中の多様な人々がフラットに集まり、  
オープンにつながる場所となっています。



## VALUES - The 8 ways

単にビジネスパーソンではなく、一人の人間として。

私たちは、高い視座と高いインテグリティとともに生きる者である。The 8 ways はその前提のもとで共有される。

1	<b>WE DREAM LOUD</b>	夢は大きい方がいい。 その大きさが人を集める。
2	<b>WE INSPIRE CHANGE</b>	変わり続けるからうまくいく。 変わり続けるから最先端。
3	<b>WE TEAM WITHOUT LIMITS</b>	会議で反対されたら感謝する。 それは、自分では思いつかなかった視点。チームで仕事をする意義。
4	<b>WE ALL LEAD</b>	リーダーという職階はない。 アイデアを出した人が、やり遂げた人が、リーダーと呼ばれる。
5	<b>WE MAKE IT REAL</b>	企画書やプレゼンはただのプロセス。 実施して成果を上げるのが私たち。
6	<b>WE CLIMB HIGH</b>	残念なことに、 困難は私たちを成長させる。
7	<b>WE CHOOSE EXCITEMENT</b>	迷ったら、面白い方へ。 迷ってなくても、その方がいい。
8	<b>WE ARE A FORCE FOR GOOD</b>	世の中の幸福。 それは、クライアント以上の、私たちのクライアント。

## VISION

「人起点」の変革の最前線に立ち、  
社会にポジティブな動力を生み出す。



## 経営方針

# B2B2S

Business to Business to Society

顧客企業と共に社会課題を解決し、  
社会全体の持続的成長を実現する。





# CEOメッセージ

## 人が生きる喜びに満ちた活力ある社会を実現する

### 2023年度の業績振り返り

2023年度は、内部要因と外部要因の複合的な影響により厳しい一年となりましたが、このような状況下にあっても、明るい兆しも見えてきています。例えば、テクノロジーセクターの顧客企業の支出には回復の兆しが見え始めており、マクロ環境も徐々に改善しつつあります。また、マーケティング、テクノロジー、コンサルティングの融合する高度成長領域において、電通グループ全体で保有するグループの多岐に渡るケイパビリティを統合して顧客企業に提供するIntegrated Growth Solutions（インテグレートド・グロース・ソリューション）が着実に評価されています。その裏付けとして、電通グループが注力しているCT&T（カスタマートランスフォーメーション&テクノロジー）領域が、2016年は売上総利益構成比15%であったのに対して2023年度は30%を占めるまでに成長しています。特に日本においては、CT&Tの売上総利益が2023年度通期で二桁成長を記録しました。

2024年度はOne dentsuを通じて顧客企業へのIntegrated Growth Solutionsの提供を加速し、成長軌道へ回帰すべく、様々な施策を遂行していきます。

### 外部投資から内部成長にシフト： 2024年度の取り組み

速やかに足元の業績回復を図るために、これまでの外部投資による成長から、オーガニック成長回帰に向けた経営資源の集中をより一層加速し、内部投資の強化にシフトしています。具体的には、アカウンタビリティの高いソリューションの提供を実現するためのAIを含むデータ&テクノロジー領域や、業界をリードするIntegrated Growth Solutionsの提案と実行を担う人財育成・獲得、ビジネスオペレーションとエンタープライズプラットフォームを強化し、事業のさらなる高度化に取り組んでまいります。

また、事業戦略推進に当たり、注力すべき事業領域や市場を絞り込み、不採算な事業や市場の再建や見直しを進めております。最適な事業ポートフォリオへの変革を遂行し、健全な事業成長を図るに際し、財務面からの規律も徹底するため、本年度より取締役会の諮問機関として独立社外取締役が構成する「ファイナンス委員会」を設置し、運用を開始しています。

そして、近年実効性を向上してきたガバナンス及び内部統制についても、さらなる進化へ向けた取り組みを進めております。「仕事への取り組み方を刷新することで、すべてのステークホルダーに対する責任を果たす」ことを目的に、「dentsu Japan改革委員

会」を設置し、私自身が委員長に就任して意識行動改革に邁進しております。このような体制の強化のもと、グループ行動憲章を当社グループ全体に浸透させることで、インテグリティを最優先とする組織風土の実現を図ってまいります。

### 大変革期におけるdentsuの価値創造

私たちを取り巻く外部環境は、これまでにないほどのスピードで大きく変化しています。テクノロジーの著しい進化によるビジネス環境の変化だけでなく、地球環境も大きな課題に直面しており、人も、企業も、国も全世界で一丸となって真剣に取り組まなければならない状況になっています。持続可能な社会を実現していくためには、これまでの延長線上ではない、まったく新しい未来を創造していかなければなりません。

そのような環境下において、B2B2S（Business to Business to Society）を標榜する電通グループは、経済的価値と社会的価値双方の創出に率先して取り組み、企業価値を創造していきたいと考えています。私たちの価値創造モデルは、dentsuが自らの強みを活かしながら、顧客企業やパートナー企業と協働し、どのように価値を創造し、目指す社会を実現していくかを表しています。また、今後は、財務のみならず非財務領域を加えた双方を重視すべ

きと考えています。例えば人的資本はその最たるものです。これらの観点から、dentsuが重点的に取り組むべき「5つのマテリアリティ」\*を抽出し、グループ全体で取り組み始めています。

特に今年は、dentsuの事業活動を通じて環境・社会・経済に与える影響を考慮しつつ、中長期的な企業戦略である「2030サステナビリティ戦略」をアップデートし、取り組みを開始した元年でもあります。「2030サステナビリティ戦略」は、重要な経営戦略のひとつであり、事業戦略と密に連携しながら進めていくことが大切だと考えています。

私たちがこの戦略をOne dentsuで遂行することは、顧客企業に対して新たな成功の道を切り開くものでもあると信じております。

※「5つのマテリアリティ」については、第2章で詳細を説明いたします。

## dentsuならではの強み。それは多様な人財により、未来を発想し、実行する力

dentsuは、創業以来一貫して「人が資本」の企業です。そのようなdentsuにとって、創造力と実行力に長けた多様な人財こそが、持続的な企業価値向上の源泉です。

また、dentsuの人財は、一歩先のより良い社会を創りだすことにモチベーションを見出します。それがdentsuのDNAでもありま

す。そして、私たちは、123年の歴史を通じて、つねに人や社会を見つめ続けてきたことで培った「人への洞察力」も備えています。

**一人ひとりもつクリエイティビティのある発想力と実行力を結集し、イノベーションを起こしていくことで、電通グループのビジョンである「人起点」の変革の最前線に立ち、社会にポジティブな動力を生み出す。**それがdentsuの描く未来の姿です。

私たちは、顧客企業をはじめとしたステークホルダーの皆様とともに、「人が生きる喜びに満ちた活力ある社会」の実現を目指してまいります。



(株)電通グループ 取締役 代表執行役 社長  
グローバル CEO

五十嵐博